

品目	2022年度 (実績)		2023年度 (見込み)				2024年度 (見通し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	伸び率%				
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%							
総額	99,225	+15.5%	50,243	+1.4%	50,906	+2.5%	101,149	+1.9%	↑	103,302	+2.1%	3年連続で増加。円安効果や半導体不足の改善に伴う自動車の輸出増等が主因。100兆円超となり、比較可能な1979年以降で過去最高となる見込み。	引き続き小幅増。世界経済は減速する中でも世界貿易は増加する前提により、数量増を見込む。価格の上昇は円高の影響により限定的。
EX 01 食料品	1,159	+14.7%	580	+0.3%	562	▲3.1%	1,143	▲1.4%	↓	1,065	▲6.8%	円安が追い風となる中、8月以降は原発処理水の影響で中国などが日本産水産物の輸入を禁止したことからホタテ貝などの魚介類を中心に輸出が急減。下半期も禁輸の影響が続くとみられることから、22年度から小幅に減少する見込み。	農林水産物・食品の輸出額目標(25年までに2兆円、30年までに5兆円)の達成に向けた政府支援が追い風となるものの、海外景気の減速による需要の鈍化や円高シフトが下押し要因となる。禁輸の影響が続くと仮定すると、23年度から減少する見込み。
EX 02 原料品	1,594	+9.1%	797	▲4.7%	701	▲7.5%	1,498	▲6.0%	→	1,506	+0.5%	金属鉱は、主要輸出先であるアジア諸国の調達意欲低迷が価格の下げ要因となり、金額は22年度比で減少する見込み。生ゴムは、中国および欧米向けタイヤを中心とする最終製品の需要軟化に伴い、数量・金額共に22年度比で減少する見込み。織物用繊維は、欧米を中心とする衣料品需要の軟化に伴い、数量・金額共に22年度比で減少する見込み。	金属鉱は、鉄鋼需要の底打ちに伴う鉄スクラップの需要回復を織り込む一方、円高による下押し圧力も予想され、23年度比で金額は多少の増加に留まる見込み。生ゴムは、新車向けタイヤの需要一服に加え、円高による下押し圧力も予想されることから、23年度比で金額は減少する見込み。織物用繊維は、繊維品需要については停滞の継続を見込む。加えて、生産拠点の海外移転の動きも継続することから金額は減少する見込み。
EX 03 鉱物性燃料	2,269	+83.9%	654	▲47.2%	993	▲3.6%	1,647	▲27.4%	↓	1,530	▲7.1%	石油製品は、22年度に引き続きロシア・ウクライナ戦争に端を発したエネルギー供給不安からマージンは高止まり状態が続いている。ロシア品の供給フロー停滞により、海外市況>国内市況の価格構造が継続、本邦各社は余剰カーゴを積極的に輸出している。日中韓の製油所では定期修理やトラブルも多く、海外市況は良い。	アジア豪州域内の需要は、中印を中心に年数%単位で高まっていくと見られる。中印ではファイナリーの新設が進む一方、日豪では製油所の縮小・閉鎖が続いており、今後もアジア豪州域の需給はタイト感が生じる見込み。ロシア品の供給が戦争前の水準に戻らない限りはマージンも引き続き高止まりを見せ、輸出も一定量残る想定。
EX 04 化学製品	11,687	+7.3%	5,468	▲8.9%	5,167	▲9.1%	10,635	▲9.0%	↑	11,000	+3.4%	プラスチックや有機化合物は中国における需要停滞に加えて生産能力拡大の影響が大きく、下半期になると下げ止まるが増加には至らない。無機化合物は22年度まで続いた価格高騰の反動で減少する。医薬品は緩やかな増加が続く。なお、半導体関連は半導体の生産調整一巡に伴い下半期には下げ止まると見込む。	プラスチックや有機化合物は中国需要が持ち直すが生産能力拡大の影響が続き増加ペースは緩やか。無機化合物等の工業関連需要は世界景気の減速に伴い上半期を中心に停滞から脱せない。半導体関連は持ち直すが上半期を中心に停滞感が残る。
EX 05 原料別製品	11,890	+13.8%	5,840	▲4.1%	5,750	▲0.9%	11,590	▲2.5%	↓	10,932	▲5.7%	鉄鋼と非鉄金属が下半期は横ばい圏を推移する一方で、繊維用糸・繊維製品が増加するものの、全体としては22年度から小幅に減少する見込み。	景気減速や価格の低下などから鉄鋼や非鉄金属が23年度から減少する一方で、繊維用糸・繊維製品は横ばい圏にとどまり、全体として23年度から減少する見込み。
鉄鋼	4,763	+15.1%	2,299	▲7.1%	2,252	▲1.6%	4,551	▲4.4%	↓	4,205	▲7.6%	数量は、自動車関連の需要が回復傾向にあるものの、産業・建設機械関連が減速傾向にあるため、22年度に比べて緩やかな回復にとどまる。価格は、上半期から下半期にかけて概ね横ばい圏を推移するものの、22年度を下回るため、金額は22年度比で減少となる見込み。	数量は、安定したアジア需要や欧州需要の持ち直しも期待されるものの、国内生産能力が低下することもあり、23年度から減少する。価格は為替要因もあって緩やかに低下するため、金額は23年度比で減少する見込み。
非鉄金属	2,492	+16.7%	1,236	▲2.6%	1,180	▲3.5%	2,416	▲3.0%	↓	2,321	▲3.9%	銅及び同製品の数量は、下半期に減少するものの、通年で横ばい圏にとどまる。一方で、価格は上半期から小幅な上昇にとどまるため、金額は22年度から横ばいとなる見込み。アルミニウムの下半期の数量と価格は、物価高騰などを背景に海外需要が軟調である中で、ともに22年度から低下するため、23年度の金額は減少する見込み。	銅及び同製品の数量は23年度から横ばいとなる一方で、国際市場の供給過剰を背景に国際価格が横ばいも、円高・ドル安の影響から円建て価格は低下するため、金額は減少する見込み。アルミニウムは、海外需要の持ち直しとともに、数量が緩やかに増加し、価格も緩やかに上昇するため、金額は増加する見込み。
織物用糸・繊維製品	777	+12.7%	394	+1.0%	435	+12.2%	828	+6.6%	→	827	▲0.2%	輸出金額は増加。円安や原材料高騰の影響により価格が上昇することに加え、数量も、中国向けが減少するも欧米や中東向けが堅調で、輸出全体を押し上げる見込み。	輸出金額は横ばい。価格は円安の一服で下落する一方、数量は、欧米の景気減速による影響が出るものの、堅調に推移するインド・ASEAN向けが全体を押し上げる見込み。
EX 06 一般機械	19,010	+12.3%	9,099	▲3.4%	9,180	▲4.3%	18,279	▲3.8%	↑	19,580	+7.1%	円安により円ベース価格は上昇するが、欧米向けの伸び悩みやアジア向けの不振等により数量は減少する見込み。原動機輸出は世界的なEV化の進展もあり数量漸減も円安の価格要因から金額ベースで小幅プラス。半導体等製造装置がグローバルな半導体不況入りに伴い輸出不調となったことが響いた。	自動車海外生産の頭打ち傾向により原動機の数量ペース漸減が続く見込み。半導体市況の底打ちから半導体製造装置への需要も回復し、輸出は持ち直し見込み。
原動機	2,858	+11.7%	1,467	+5.6%	1,500	+2.1%	2,967	+3.8%	→	2,948	▲0.6%	原動機の約6割を占める自動車用内燃機関(エンジン)の数量減が続くものの、金額ベースでは円安進行に伴う円ベース輸出価格の上昇により増加見込み。中国における日系メーカーの不振やEVの普及が大きく影響。	欧米向けがやや持ち直すが、アジア(中国・ASEAN)向け自動車用内燃機関(エンジン)の数量減が続く見込み。
半導体等製造装置	4,046	+13.7%	1,643	▲21.3%	1,688	▲13.9%	3,330	▲17.7%	↑↑	4,163	+25.0%	データセンター向け需要は底堅い一方で、PCやスマートフォン需要が停滞し、メモリなどの生産の回復時期が後ずれしているため、半導体等製造装置の数量も22年度から減少する。価格は緩やかな上昇基調にあるものの、輸出額は22年度を下回る見込み。	AI用サーバーなどの需要が堅調に推移し、PCやスマートフォンなども緩やかに持ち直しに向かうとみられ、それらに関連した半導体等製造装置への需要も回復することで、輸出額が23年度から増加する見込み。
EX 07 電気機器	17,231	+9.2%	8,301	▲4.9%	8,414	▲1.0%	16,715	▲3.0%	↑	17,467	+4.5%	減少に転じる。重電機器は部材の供給制約緩和などから増加するものの、半導体等電子部品を中心とした多くの品目で世界経済の減速やエネルギー・材料価格の高騰を受けて需要減少が続く見込み。	増加に転じる。円安の一服に伴い価格は下落するものの、半導体等電子部品を中心とした需要増が全体を押し上げる見込み。
半導体等電子部品	5,694	+12.0%	2,676	▲7.6%	2,767	▲1.1%	5,443	▲4.4%	↑	5,766	+5.9%	上半期はスマートフォンやPCなど民生機器向けの需要低迷や、これを受けたサプライチェーン内の在庫調整に伴い、メモリを中心に多くの製品で数量の落ち込みが目立った。一方、車載半導体など一部用途向けは、最終製品の需要増や電装化の進展などもあり底堅さを保った。下半期は最終製品であるスマートフォン、ノートPCに関して需要回復の動きが鈍く、上半期に引き続き22年度比でマイナスとなる見込み。	サプライチェーン内の在庫調整が一服し、半導体サイクルにおける需要回復局面に差し掛かると見込まれることなどから、23年度比で金額は増加に転じる。ただし、世界経済の不透明感が続く中、過去のサイクルと比較すると伸びは控えめとなる見込み。
電気計測機器	1,959	+4.4%	935	▲5.2%	978	+0.5%	1,913	▲2.3%	↑	1,951	+2.0%	減少に転じる。数量は世界経済の減速やエネルギー・材料価格の高騰を受けて伸び悩み、価格も下落トレンドが続く見込み。	世界経済の不透明感により増勢は弱いですが、脱炭素関連や次世代通信関連の投資などの底堅い需要から、増加に転じる見込み。
EX 08 輸送用機器	19,752	+21.8%	11,864	+26.9%	11,833	+13.7%	23,697	+20.0%	↑	24,123	+1.8%	輸送用機器は円安などの影響により自動車を中心に堅調で、22年度比で増加する見込み。自動車関連は円安基調に加え半導体不足の改善が追い風となり大幅に増加し、船舶は中国・韓国の高シェアが継続し、数量・金額とも微増となる見込み。	輸送用機器は自動車を中心に主要国の経済減速が下押しとなり、23年度比で増加する見込み。自動車関連は半導体不足の改善などあるものの、米国経済の減速や円高基調への転換により23年度比横ばい、船舶は数量については微増だが、造船コストの上昇により金額は大幅に増加する見込み。
自動車	13,735	+28.0%	8,741	+37.9%	8,738	+18.2%	17,479	+27.3%	→	17,544	+0.4%	上半期は半導体不足改善に伴う挽回生産で数量・価格共に欧米向け中心に大幅に増加。下半期は米国の景気減速懸念や金利高止まりの影響などにより数量は減速基調となるも、円安基調継続が価格押し上げ要因となり、金額は22年度比で増加となる見込み。	半導体不足の解消により、数量・金額共に引き続きプラスの伸びが予想されるが、米中の経済成長減速が下押しとなり、23年度比で横ばいにとどまる見込み。
自動車の部分品	3,730	+2.0%	1,978	+3.0%	1,884	+4.1%	3,862	+3.5%	→	3,894	+0.8%	中国を中心としたアジア向けが景気低迷などにより減速するも、欧米向けは半導体不足改善などによる市場の回復に伴い堅調に推移する。数量・価格ともに増加し、金額は22年度比で増加となる見込み。	欧米向けに加えASEAN向けも堅調となる一方で、中国向けは自動車市場における日系メーカーの苦戦継続などの影響により伸びが鈍化する。部分品全体では23年度比横ばいで推移する見込み。
船舶	1,203	+20.7%	615	+3.9%	594	▲2.8%	1,209	+0.5%	↑↑	1,427	+18.0%	受注はできてはいるが、中国・韓国の優位(高シェア)は変わらない。22年度比でみると数量・金額とも微増となる見込み。	LNG・メタンール・アンモニア等を主燃料とする環境配慮型船の受注は増加傾向にあるが、受注数量自体への影響はわずか。24年度については、数量は微増だが、鋼材価格上昇と燃料ハイブリット型とする追加費用等による造船コストの大幅な上昇により、金額では数量を上回る伸びとなる見込み。
EX 09 その他	14,632	+22.9%	7,640	+4.3%	8,304	+13.7%	15,944	+9.0%	→	16,100	+1.0%	円安による価格上昇を主因に、増加が続く見込み。	再輸出品を中心に増加する見込み。円安に伴う価格上昇は一服するものの、海外需要の回復を背景に数量が増加する見込み。
科学光学機器	2,534	+8.8%	1,260	▲0.7%	1,291	+2.0%	2,551	+0.7%	↓	2,520	▲1.2%	下半期は、スマートフォンや医療検査機器の世界的需要は上半期と同水準で推移するが、円安の影響で金額は上半期より微増となる見込み。23年度全体として、アジア向けの金額が微減する一方、欧米向けは円安影響で増加し、総じて22年度とほぼ同水準の予測。	スマートフォンや医療検査機器の世界的需要は引き続き堅調に推移すると見られ、数量の増加が予測される。一方で、円高基調となる予測のため、金額は23年度とほぼ同水準となる見込み。

*2023年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。